



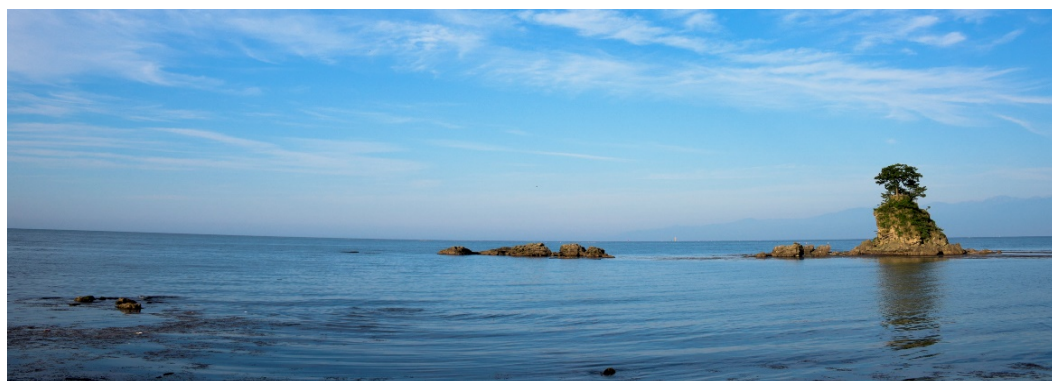
UNITED NATIONS  
UNIVERSITY

UNU-IA

Institute for the Advanced Study  
of Sustainability

July  
2016

## Newsletter 7



# UNU-IA

# GEOC

United Nations University Institute for the Advanced Study of Sustainability GEOC Programme

## 生物多様性の主流化：国連大学 IAS・GEOC による推進

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IA)が環境省と共同で実施する地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)は、今年で設立 20 周年を迎えます。GEOC は国際的に重要なテーマを日本国内に向けて発信し、各地域における取組と国際的なテーマを結び付けることにより、地球規模の課題への関心の向上や様々なセクターのパートナーシップを促す重要な役割を果たしてきました。

生物多様性に関わる活動でも、UNU-IA と GEOC は生物多様性問題への理解や普及啓発活動に積極的に取り組んできました。2020 年に期限を迎える愛知目標の達成や持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向け、様々な活動を通じて主流化を推進しています。

### ◇ UNU-IA の研究活動

国際 SATOYAMA イニシアティブプロジェクトを通じて、生物多様性の保全と人々の生活の発展が共存することを具体的に示すことで、愛知目標や国連生物多様性の 10 年や SDGs が目指す自然と共存する持続可能な社会の実現を国際的に進めるためのモデルの形成について研究活動を行っています。

### ◇ 生物多様性の本箱

GEOC スペースでは、「生物多様性の本箱」～みんなが生きものにつながる 100 冊～コーナーを開設し、世代を超えた生物多様性の理解促進に貢献しています。スペースでは、GEOC が委員を務める国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)が選定した生物多様性に関する子供向け図書 100 冊を閲覧できます。

### ◇ 国際生物多様性の日を記念したイベントの開催

UNU-IA では一般市民を対象に生物多様性の主流化に向けた普及啓発活動の一環として、毎年国際生物多様性の日(5月22日)に合わせて、公開シンポジウムを開催しています。実践者や有識者による発表・意見交換、生物多様性を守るためのアクションや UNDB-J 認定事業を紹介する GEOC 企画展示「生物多様性のなかで生きる」などを通じて、積極的に普及啓発を行っています。2016 年のシンポジウムの詳細については裏面よりご確認ください。

SUSTAINABLE  
DEVELOPMENT  
GOALS

2030 年に向けて  
世界が合意した  
「持続可能な開発目標」です

14 海の豊かさを守ろう



15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



2015 年に国連で採択された国際目標 SDGs。17 項目のうち、目標 14、目標 15 などが生物多様性に関連しています。目標 17 は 17 項目の実施手段としてパートナーシップの活性化を掲げていて、全体に関わる目標となっています。SDGs の達成期限は 2030 年です。



GEOC は「国連生物多様性の 10 年日本委員会(UNDB-J)」の委員として生物多様性の主流化に取り組んでいます。

## GEOC Global Environment Outreach Centre

地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)は環境省と国連大学が共同で実施する、環境や持続可能な開発に関するパートナーシップ形成のための国際的な活動です。

# 国際生物多様性の日シンポジウム 「生物多様性の主流化—人々と暮らしを支える森里川海」 開催報告

## ◇ 国際生物多様性の日とは

国連が生物多様性問題に関する普及と啓発を目的として定めた国際デーです。1992 年 5 月 22 日に生物多様性条約の本文が生物多様性条約交渉会議において採択されたことを受け、毎年 5 月 22 日を国際生物多様性の日としています。毎年この日に合わせ、世界共通のテーマに沿って各地で生物多様性に関する様々なイベントが開催されています。さらに国連では、2011 年から 2020 年までの 10 年間を「国連生物多様性の 10 年」とし、国際社会のあらゆるセクターと連携し重点的に生物多様性問題に取り組む期間としています。



## ◇ 2016年のテーマ

2016 年のテーマは「生物多様性の主流化：人々や暮らしの支え」(Mainstreaming Biodiversity; Sustaining People and their Livelihoods) です。生物多様性の主流化とは、農業、漁業、観光などの経済活動をはじめ、人々の日々の暮らしをあらゆる面で支えている生物多様性の恵みを認識し、生物多様性の保全と持続可能な利用を日常生活に組み込むことです。自然と共生する持続可能な未来に向け今後も生物多様性の主流化を継続して推進する必要があります。



## ◇ 国際生物多様性の日2016公開シンポジウム報告

国連大学サステナビリティ高等研究所(UNU-IAS) では、生物多様性への関心の向上や多様なセクター間のパートナーシップの促進を図ることを目的に、毎年シンポジウムを開催しています。2016 年は 5 月 21 日(土)に、環境省と地球環境パートナーシッププラザ(GEOC)とともに国際生物多様性の日を記念した公開シンポジウム「生物多様性の主流化—人々と暮らしを支える森里川海」を開催しました。

主催者挨拶では、竹本和彦 UNU-IAS 所長も登壇し、UNU-IAS が研究活動や地域コミュニティとのパートナーシップを通じて、生物多様性の保全と意識啓発活動について貢献してきたことを強調しました。基調講演では武内和彦国連大学上級副学長による「森里川海で拓く成熟した国づくり」と題した発表が行われ、人々が豊かな自然と共生する社会を取り戻すためには、分断された森里川海をもう一度つなげることが重要であると述べました。

さらにシンポジウムでは、ニュージーランドで自給自足の生活を営みアーティストインキュベーターとして活躍する四角大輔氏と、モデルでエシカルファッションプランナーとしても活躍する鎌田安里紗氏との対談も行われました。一連の発表やディスカッションでは、森里川海の恵みと生物多様性を生かした持続可能な社会の実現に向け、つながりを意識してゆくこと、森里川海の生産者と消費者をつなげる仕組みをつくること、そして消費行動において生物多様性に貢献することが必要であるとの見方が示されました。今後もさまざまなステークホルダーと連携し、一人ひとりが積極的に生物多様性に関わり続けてゆくことが重要であるとの認識が共有されました。

会場では GEOC がパネル展示を行い、生物多様性につながるアクションや国連生物多様性の 10 年日本委員会による認定連携事業を紹介し、生物多様性への理解促進を図りました。当日のプログラムは UNU-IAS ウェブサイトより確認頂けます。



当日は熊本から阿蘇の世界農業遺産登録に貢献した宮本けんしんシェフが参加。阿蘇の食材を使うことによる草原の維持や、熊本地震による農家の被害、今後の復興について語りました。